

この紙のゴール： 評価の材料を、素点のまま1クラス分そろえておく

学期末に評価が出せないのは、材料が無いからではなく**材料が散らばっている**からです。

列の見出しには、**材料の名前と観点と重み**を書きます（例： 中間検査 知技 30%）。残すのは観点の合計ではなく**素点**ですー合計だけを残すと、来年に線を引き直したくなったときに計算し直せません。空いた列は、追試や再提出の記録に使ってください。

記録

Iクラス40人。氏名は書かず、出席番号で持つと保管が軽くなります

番	材料1	材料2	材料3	材料4	材料5	材料6	メモ
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							

学期の記録簿 | 列の設計と、残し方

列の設計 6列でいたい足够了。足りないときは観点の多いほうを増やします

列	入れるもの	観点
1	定期考査（知識・技能の大問の小計）	知技
2	定期考査（思考・判断・表現の大問の小計）	思判表
3	小テストの累計（回数もメモ欄に）	知技
4	パフォーマンステスト	思判表
5	ライティング課題	思判表
6	振り返りの記述（2回ぶん）	態度

定期考査を1列にまとめないこと。観点別に集計できなくなり、学期末に答案を出し直すことになります。

残し方

- ・素点で残す。A・B・Cや評定だけを残すと、線を動かした瞬間に全部やり直しになります。
- ・紙で持つならこの1枚を、表計算で持つなら同じ形（行が生徒・列が材料）で。行と列を入れかえると、材料が増えたときに壊れます。
- ・氏名は入れず出席番号で持ち、名簿と別に保管します。持ち歩く紙に氏名があると、紛失が事故になります。
- ・年度末に、この紙をそのまま次の担当へ渡さないこと。渡すのは数字ではなく、線の決め方（何をAにしたか）のほうです。

学期末の使い方

順	すること
1	列ごとに満点を書き込み、生徒ごとに観点別の得点率を出す
2	得点率をA・B・Cに変える（線は評定の出し方＝別紙で決めた値）
3	3観点のA・B・Cを合計方式で評定に変える
4	境目の生徒だけメモ欄に印をつけ、上げる材料があるかを見る
5	印刷または書き出して保存。翌年の4月に、この1枚から年間の評価計画を直す

